



④まつり期間中は、地元の幼稚園、小学校の子どもたちが写生に訪れます。



③6月中旬に一番の見ごろを迎える花菖蒲。

**一輪の花がもたらした
産業振興と人々の和**
10年かかってやっと努力が実り花菖蒲は園内いっぱい咲くようになりました。その美しさを限られた人だけで楽しむのはもったいないと、地元有志が集まって、



①会場は一面に紫や白の花菖蒲が咲き誇り、来場者を優しく迎えてくれます。

越前若狭の歴史を紡ぐ

ふくい 祭り紀行

色彩の美しさを競う

「あわら北潟湖畔花菖蒲まつり」

梅雨時期を和ませる 立ち姿に魅せられて

毎年6月になると、北潟湖畔に涼と佇む見事な花菖蒲の花々を見る事ができます。この時期、300種20万株の花菖蒲が咲き乱れる「あわら北潟湖畔花菖蒲まつり」では、紫、黄、白、ピンクの多彩な彩りとその優美な姿で、訪れる

昭和61(1986)年「第一回北潟湖畔花菖蒲まつり」を開催。会場でプリンスメロンや、北潟湖産の天然ウナギ、こうなごの佃煮などの販売も行ったことで、地場の産業の紹介にもつながり、現在のまつりの原型ができあがりました。県指定無形文化財・北潟民謡の「どっしやどっしや踊り」も披露され、まつりを盛り上げる一端を担ったといえます。

湖畔に住む人々の 愛情が注がれてこそ

花菖蒲の見ごろは、例年6月の13〜20日ごろ。15日前後には満開となるそうです。日照時間や気温とも関係するので、必ずしも思うようには咲きません。花菖蒲の世話をしている、地元女性グループの一人、地石トシエさん。あわら市北潟IIは「3月から11月まで花菖蒲園に通っています。5月の天候で開花時期が決まるので、心配で夜も眠れない日もありますね」と話します。

人の目を楽しませてくれます。

まつりの会場となる花菖蒲園は、昭和51(1976)年6月に開園しました。今でこそ「花菖蒲の北潟湖」というイメージがありますが、もともとこの地に咲いていたわけではありません。北潟湖のイメージアップを図り、地域を活性化させようと、花菖蒲の栽培が計画されたのです。しかし実現に至るまでには、多くの苦労が伴いました。

たった一株のために 苦難の道のり

まず、静岡県掛川市にある加茂花菖蒲園から選りすぐりの株を分けてもらい栽培を開始。花菖蒲は水はけがよいところでないとい育ちませんが、北潟湖は湖畔に田園が広がっているような泥地。土を変えたり、砂地に整備したり、土壌の改良を重ねました。1年ごとに株は増えていったものの、3〜4年ごとに株分け、植え分けをしないと花が小さくなったり、見た目に寂しくなるといった状態



⑤開花を目前に、連日準備に追われる女性グループのメンバー。

休日には大勢の家族が 集う保養地に

地道に花を根付かせて、一大花菖蒲園となった北潟湖畔。平成11(1999)年には、赤の塗色も鮮やかな「アイリスブリッジ」と、湖に沿って快走できる「サイクリングパーク」が完成。今年4月には自然環境を生かした「北潟湖畔公園」もオープンしました。湖を眺め、花に親しみ、体を動かし、散歩する。北潟湖は、地域の人の憩いの場だけでなく、たくさんの人々が楽しめ、訪れた人が心を癒される湖畔として、ますます発展することでしょう。

information

- あわら北潟湖畔花菖蒲まつり/6月10日(木)〜6月25日(金)
- 場所/北潟湖畔花菖蒲園(あわら市北潟)
- 入園料/入園自由
- 問合せ/あわら市観光工課 TEL.0776-73-8029
- 交通/●北陸自動車道金津ICまたは加賀ICから車で約20分
●JR北陸本線福井駅下車、えちぜん鉄道三国芦原線であわら湖のまち駅下車、京福バス北潟行きで10分、北潟下車 徒歩5分

※②③④の写真提供/あわら市観光工課



②第1回のまつりの様子。湖畔に船着き場があり、遊覧船が往来していました。